

全肢連情報

ZENSHIREN BULLETIN

□編集・発行

一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会

〒171-0021

東京都豊島区西池袋4丁目3番12号

□Publisher ZENSHIREN

TEL: 03-3971-3666

FAX: 03-3982-2913

E-mail: web-info@zenshiren.or.jp

皆様からのニュースのご提供を
心からお待ちしております。

全肢連情報はホームページ「響(ひびき)」でもご覧になれます。URL: <http://www.zenshiren.or.jp>

SNSで障害児・者、肢体不自由児・者の情報交換を *Facebook* <https://www.facebook.com/ZENSHIREN>

熊本地震 ご報告

*熊本地震義援金 ご報告

全国からお寄せいただいている熊本地震の義援金について、6月22日に熊本県肢連 松村馨会長に対し、熊本県内の障害者とそのご家族、関係者の皆様の復興に寄与していただくことを願い、目録が届けられた。

熊本県肢連事務局での目録の手交に先立ち、熊本県庁において健康福祉部 子ども・障がい福祉局 障がい者支援課の井上課長、新納主任主事との情報交換会と災害時要支援者に対する今後のケアなどについて意見交換も行われた。

4月22日には20万円の見舞金を九州ブロック連絡協議会に託されたが、今回は熊本県と大分県の関係者に対して九州ブロック連絡協議会を通じて250万円の義援金が届けられた。

また、6月25日に福岡市で開かれた九州ブロック連絡協議会総会においても九州ブロック各県から熊本県と大分県肢連に対して義援金の贈呈が行われた。

改めて全国の皆様の御厚情に対し、心より御礼申し上げます。



*熊本地震・障害者関連ニュース

<4月25日付 毎日新聞>

◆福祉避難所機能せず 利用わずか104人

熊本地震で4万人近くが避難する熊本市で、高齢者や障害者ら「災害弱者」を受け入れる福祉避難所の利用者が24日現在でわずか104人ととどまっている。市は国の方針に従って176施設を福祉避難所に指定し、災害時には約1700人を受け入れられるとされていたが、実際は施設側の準備や要支援者への周知はほとんどされなかった。多くの災害弱者が、設備やサポートのない場所で過酷な生活を余儀なくされている可能性がある。

福祉避難所の必要性は1995年の阪神大震災でクローズアップされ、厚生省（当時）が97年、全国の自治体に指定を推奨。2007年3月の能登半島地震で初めて設置された。国によると、13年6月現在で福祉避難所を指定している市区町村数は1167で、全体の約67%に達する。

熊本市は、災害時に自力での避難が難しい市民が約3万5000人いると想定し、福祉施設を受け入れ先として活用できるよう、14年度までに社会福祉法人など8団体と協定を締結。約1700人の受け入れ枠を確保したとしていた。

だが、16日の本震を受けて市が福祉避難所を開設できたのは、受け入れ先とされていた176施設のうち34施設。市は「施設に問い合わせが殺到し、現場が混乱する」として市民に広く開設を知らせず、避難所を巡回する市の保健師が聞き取り調査で介護などが必要と判断した場合のみ、施設ごとに交渉していた。それでも「対応する人も足りず、入所者がいるので場所もない」（市内の福祉施設）などの理由で断られることも多かったという。

20日段階で36人しか受け入れていないことが判明し、市は21日になって指定していなかった県身体障がい者福祉センター（同市東区）を福祉避難所として開設。有料で貸し出していた個室を災害弱者は無料で利用できるようにした。市は「協定を結んでいる施設の受け入れ態勢が整わなかった」と説明する。

内閣府が今年4月にまとめたガイドラインには、福祉避難所に指定された施設などの場所を、あらかじめ要支援者や住民などに周知するよう明記されている。担当者は「普段から広く周知しておかなければ『あそこに行けば安心』という場所に行けない」と指摘する。

熊本市は24日、北九州市に福祉避難所設置を要請し、介護付き有料老人ホームなど計56施設で約210人の受け入れが可能になったと発表した。北九州市側が希望者の状態の把握や施設への移動などを一括して担う。

<4月26日付 朝日新聞>

◆車いす被災者の困難 震度5強を受けて考えたこと

今回の熊本地震は、熊本県をはじめ、大分・福岡・佐賀県など広い範囲へ被害を及ぼしました。私の住む福岡県久留米市でも、大きな揺れが観測されました。

災害はどんな人にも等しく降りかかりますが、とりわけ災害弱者と言われる人たちの避難生活には大変な苦勞が待ち受けています。車いすユーザーの私が今回の地震で直面した困難と、本格的に被災したときに起こり得る困難を想定してみたいと思います。

【避難】

——そもそも逃げられない

震度5強。本震が起こった16日の深夜、私はベッドで眠っていました。緊急地震速報のアラームで目は覚めたけれども、あの揺れの中で起き上がることも出来ません。私に限らず、下肢が麻痺（まひ）している人の多くは体幹の機能も弱っているため、不安定な状況下で車いすへ移乗するのは、とても難しいことなのです。

また、車いすに乗ったとしても“避難”が問題です。今回、マンションのエレベーターは約20時間止まったままでした。災害時の避難は階段の利用が鉄則ですが、歩けない私はどうすることも出来ません。家族などがおんぶや抱っこで抱えてくれたとしても、自室のある6階からの移動には危険が伴います。それに降りた先での移動を考えると、車いすも連れていかなければなりません。しかし、いざ、そういう状況で“車いすも一緒に”と悠長なことを言われていられるでしょうか。

もしかしたら、私は避難を諦めるかもしれません。だって、身体が不自由な私の避難に

付き合ったがために家族も逃げ遅れた、なんて事態は絶対に嫌です。「私を置いて、逃げて!」、そう言うのだらうと思います。

まして、一人暮らしだったなら、その場に留まる以外、選択の余地はありません。

——避難所までたどり着けない!?

車いすで屋外へ避難したとして、がれきの中を移動できるのでしょうか。車いすのタイヤのパンクは避けられないだらうけれど、地盤がゆがんだ歪んだ道路を通るのは難しいような気がします。でも、車いすを自分でこげる人は、まだ頑張る余地が残されていると言えるでしょう。

自走不可の人は、お手上げですね。私は電動車いすなので、バッテリーが切れたら身動きがとれません。ライフラインさえ断絶される状況でバッテリーの充電なんて余裕はないと思います。

被災の入り口をすこし想像しただけでも、車いすユーザーの避難は絶望的に思えてきました。ここからは、避難所での生活で起こり得る困難を考えます。

【避難生活】

——トイレ

脊髄損傷や頸髄損傷で車いすの人は自然排泄が困難な場合が多く、医療的な手法を用いていることがあります。私の場合、排尿は尿道へのカテーテル挿入が必要なので清潔な環境が求められますが、そうも言っていられないので尿路感染のリスクが増大するでしょう。

排便も摘便などを行うためには手袋や潤滑油などの医療品が必要なので、どこかで入手しなければいけません。合わせて、平常時から「避難グッズ」として準備をしておく自助努力も必要だと思います。

——褥瘡（じょくそう=床ずれ）（注2）

睡眠時、避難所では硬い床での雑魚寝が想定されますが、確実に褥瘡ができると思います。普通の人々の身体は脂肪や筋肉で守られているし、痛覚があるので、寝返りを打って無意識のうちに回避しています。しかし、下肢麻痺（まひ）者のお尻は脂肪や筋肉が少なく骨張っているため、一晩もすればあつという間に褥瘡です。

My車いすが被災した場合も注意が必要ですね。褥瘡を防止するための特殊なクッションを日常的に使っている人は、それが無い状態で座ると途端に悪化してしまうのです。

——体温調節

脊髄の損傷レベルが高い人は自律神経にも障害があって、体温を調節することが難しいことがあります。冬であれば寒さをしのぎ、夏であれば熱を逃がすための工夫が必要です。

——薬

痛み止めや排泄管理など日常的に薬を飲んでいる人は、その入手先も考えなくてはなりません。切らしたら命に関わるような薬なら、なおさらです。日頃から予備を持っておく手もありますが、医療機関からの処方薬だと“多めに”というのも難しかったりするので現実的ではないでしょう。

——お風呂

自衛隊が仮設のお風呂を無料開放する、ということもあるようですが、移乗や構造の問題で入れない場合が多いそうです。3. 11では、何週間もお風呂に入れなかった車いすユー

ザーもいたとのこと。排泄管理のために清潔さを保つ必要もあり、清拭（せいしき）でし
のぐには限界がありそうです。

——心の問題

先日、「避難所で過ごす障害者の声」をとり上げた番組がNHKで放送されていました。

その中で印象に残ったのは、「避難所に行くことを遠慮している」という声が多かったこ
とです。その理由は「周囲に迷惑をかけてしまうのが申し訳ない」というものでした。上
記で言えば、排泄問題がそれに当たります。見ず知らずの集団でプライバシーも確保され
ていない中、排泄行為をさらすということは、本人はもちろん周囲にとっても精神的に負
担の大きいことでしょう。だれにでも起こる生理現象とは言え、“遠慮する”という心理も
理解できるような気がします。

【まとめ】

災害時、車いすの人は、逃げ遅れ取り残されてしまうのが現実でしょう。東日本大震災
において、障害者の死亡率が2倍だったという統計が、それを裏付けています。率直に言
えば、私も含め、死を覚悟している障害者も多いはずです。

逃げ延びたとしても、避難生活には多くの困難が潜んでいます。避難所として指定され
ることの多い小学校は段差ばかり、入ることさえままならない環境です。福祉避難所とい
う選択もあるけれど、あまり数も多くないようですし、体制の整備も不十分な印象を受け
ました。

それに、4人に1人が高齢者である日本の現状を鑑みると、障害者だけではなく、大勢
の人が「配慮が必要な被災者」となるのは自明のこと。この状況が許されるわけがありま
せん。もっと対策を講じるべきなのではないでしょうか。

今回の地震で実際に被災したわけではないので、上記は想像の域を脱しません。きっと
計り知れない苦労があるのだと思います。被災した方の声が、今後の体制づくりに生かさ
れることを切に願います。

厚生労働省 人事異動 (平成28年6月21日付)

6月21日に厚生労働省が幹部等の人事異動を発表した。主な異動は下記の通り。

<社会・援護局> (※敬称略)

- ・障害保健福祉部長 旧) 藤井 康弘 → 新) 梶尾 雅宏
※藤井康弘前部長は退官

- ・企画課長 旧) 川又 竹男 → 新) 朝川 知昭
※川又竹男前課長は雇用均等・児童家庭局 総務課長に就任

- ・障害福祉課長 旧) 田中 佐智子 → 新) 内山 博之
※田中佐智子前課長は職業安定局 雇用保険課長に就任

東海北陸ブロック大会・富山大会 開催速報

- ・日 時：平成28年6月4日（土）午後2時30分～5時
- ・会 場：ホテルグランテラス富山
- ・大会テーマ『住み慣れた地域で、共生社会の実現 ～サービスの充実をめざして～』
- ・記念講演：「富山型（共生型）デイサービス」
講師 NPO法人このゆびと～まれ 代表 惣万佳代子氏
- ・特別公演：「障害のある人の人権を尊重し県民皆が共にいきいきと輝く富山県づくり条例」
講師 富山県 厚生部 障害福祉課 副主幹 杉田尚美氏

東北ブロック地域指導者育成セミナーを開催

開催日：平成28年6月18日（土）～19日（日）

会 場：いこいの村岩手

テーマ：「相談支援が拓く、障害福祉の未来～合理的配慮を踏まえた相談支援～」

講 師：NPO法人 ADRA Japan 渡辺 日出夫 氏

もりおか女性センター 副センター長 内田 洋子氏

◆主な進行内容

<1日目>

- ① 講 演：「災害時要支援者に対する防災、減災について」渡辺 日出夫 氏
- ② グループ討議 ・あなたのまちの防災計画
・避難所（福祉的避難所）を利用するにあたっての課題
・地震（ほかの災害も）備えて準備している事、減災のヒント
・東日本大震災を体験して

③ 質疑応答

<2日目>

- ① 講 演：「防災出前講座～命とくらしを守る避難所～」 内田 洋子 氏
- ② グループ討議
- ③ 質疑応答

平成28年度糸賀一雄記念未来賞 候補者(団体)募集

<趣 旨>

障害者の基本的人権の尊重を基本に、生涯を通じて障害者福祉の向上に取り組まれた故糸賀一雄氏の心を受け継ぎ、障害者やその家族が安心して生活できる福祉社会の実現に寄与することを目的として、福祉、教育、医療、労働、経済、文化、スポーツなどの分野における障害者または障害者と同様に社会的障壁による生きづらさを抱えた人に関する取組が先進的であり、今後のいっそうの活躍が期待される個人および団体（法人、任意団体を問わない）に対して「糸賀一雄記念未来賞」を授与するものです。

<実施主体>

公益財団法人 糸賀一雄記念財団

<対象者>

国内で活動し、福祉、教育、医療、労働、経済、文化、スポーツなどの分野における障害者または障害者と同様に社会的障壁による生きづらさを抱えた人に関する取組が先進的であり、今後のいっそうの活躍が期待される個人および団体（法人、任意団体を問わない）

<募集期間>

平成28年5月27日（金）～平成28年7月29日（金）（必着）

<応募方法>

- ・「糸賀一雄記念未来賞候補者調書」および「糸賀一雄記念未来賞推薦書」に必要事項をご記入の上、下記の応募先まで送付してください。（郵送、FAX、電子メール可）
- ・応募は候補者本人、その他を問いません。但し「推薦書」は第三者のものがが必要です。

<応募先>

公益財団法人 糸賀一雄記念財団

〒525-0072

滋賀県草津市笠山七丁目8-138 県立長寿社会福祉センター内

TEL：077-567-1707 FAX：077-567-1708

▽詳しくは下記HPをご覧ください▽

<http://www.itogazaidan.jp/kinen/bosyu/index.htm>

***熊本地震義援金 受領のご報告**

このたびは、熊本地震義援金を賜り誠にありがとうございました。
皆様方の暖かいご支援に、心より厚く御礼申し上げます。

※ご送金いただきました御名義で掲載しております。

東京都肢体不自由児者父母の会連合会様	6月13日	¥250,000-
春日井市肢体不自由児・者父母の会 須藤幾子様	6月13日	¥50,000-
葛飾区肢体不自由児者父母の会様	6月16日	¥30,000-
いわき市手をつなぐ育成会 会長高村トミ子様	6月16日	¥100,000-
山梨県肢体不自由児者父母の会連合会様	6月17日	¥74,912-
八尾市肢体不自由児者父母の会 代表松並利行様	6月20日	¥33,000-
奈良県生駒市肢体不自由児者父母の会様	6月20日	¥30,000-
寝屋川市肢体不自由児（者）父母の会 代表岸谷洋子様	6月22日	¥30,000-
奈良県肢体不自由児者父母の会連合会様	6月24日	¥72,000-
大和高田市父母の会様	6月27日	¥5,000-
奈良県西和地区父母の会様	6月27日	¥15,000-
	合 計	¥689,912-
6月30日現在	累計金額	¥2,986,823-
6月22日 第一次義援金拠出金		¥2,500,000-
7月1日現在 義援金お預り残金		¥486,823-

※訂正のお願い※

全肢連情報vol.619掲載の義援金受領のご報告について、下記の通り御名義を訂正します。

(訂正前) 堺市肢体不自由児者父母の会 代表者 玉木 寛千代様



(訂正後) 堺市肢体不自由児者父母の会 会長 上野 紀美様

県肢連便り

*シーティング研修会報告②

千葉県肢連 友野様よりシーティング研修会の報告をいただきましたので掲載します。
研修・体験会ご希望の方は全肢連事務局までお問合せ下さい。

◇千葉シーティング研修会

開催日時：6月9日（木）午前10時30分～午後2時30分

会場：千葉市ハーモニープラザ

参加者：千葉県肢連・千葉市、松戸市、柏市等県下父母の会会員

講師：(株)アクセスインターナショナル 熊谷氏・菅原氏

<主な進行内容>

- ① 午前中は座学により「シーティングとは何か」
 - ・一連の講習、体験会の中身と同様にスライドでのシーティング後の画像や骨盤起立姿勢の保持、湾曲防止法など
- ② 午後から事前にモニターを募集し、装着体験会
 - ・実際のシーティングによる使用前、使用後の身体の姿勢保持を体験。
- ③ 質疑応答

<体験者・参加者の感想>

- *体験者 ・背中が真っ直ぐになって足と手がとても楽でした。
- *参加者 ・移動手段と思っていた車椅子がシーティングで本人の状態改善ができることを知り、座ってるだけで乗り心地など言えない娘には外からの軽減改善策は必要なのだと実感した。
 - ・モニターになっていた方が長時間良い姿勢のままにいたことに驚いた。
 - ・骨盤の位置をただすことで姿勢も変わり、呼吸にも影響がでるとは思わなかった。骨盤の位置の大切さがとても良く分かった。
 - ・PT、医師、業者間で広まることを願っています。
 - ・何回聞いても新たな気づきがあり、シーティングの大切さを再認識できた。もっと広めて欲しいと思う。

【シーティングとは？】

障害などにより身体に変形の方、筋力を喪失した方などを「うまく座らせ」られるよう、姿勢を保持する道具や装置といったものを適切に提供できるよう（時には製作から）工夫を重ねる、ということではないかと考えます。椅子や車椅子はその際の代表的な用具のひとつです。

シーティングとは座位保持の中核となる技術であり、そしてノウハウであると言える。

事務局からお知らせ

コカ・コーラファンデー@キッザニア招待事業 ～東京&甲子園～

全肢連&コカ・コーラのコラボレーション事業として大人気の「コカ・コーラファンデー@キッザニア東京・甲子園」が今年も下記の日程で開催します。

「キッザニア東京&キッザニア甲子園」は、主に3～15歳の子どもたちが、仕事や社会の仕組みを、本物そっくりのパビリオンで体験できる施設です。

(注：16歳以上のパビリオン体験はできません)

なお、コカ・コーラファンデー@キッザニア甲子園並びにキッザニア甲子園コカ・コーラ招待事業につきましては、8月頃に募集案内をお送りする予定です。

★「コカ・コーラファンデー@キッザニア東京」 開催：平成28年9月15日（木）
(申込締切 7月22日(金)必着)

☆「コカ・コーラファンデー@キッザニア甲子園」 開催：平成28年11月15日（火）

☆「キッザニア甲子園コカ・コーラ招待事業」 開催：平成28年12月5日（月）

※お問合せ・お申し込みは全肢連事務局まで

会長交代及び事務局移転のお知らせ

●大分県肢体不自由児者父母の会連合会では平成28年7月1日付で会長の交代が行われた。
前：会長 早咲 友範氏 → 新：会長 浜田 聖美氏

●香川県肢体不自由児者父母の会連合会は平成28年5月31日付で事務局が移転した。
新住所：〒761-2101 香川県丸亀市川西町南甲167-8 河野様方
TEL/FAX：0877-28-0429

●埼玉県肢体不自由児者父母の会連合会は平成28年6月30日付で事務局連絡先が移転した。
新住所：〒331-0812 埼玉県さいたま市北区宮原町1-622 小泉様方
TEL：048-665-3400

7月の行事予定

1日(水)	社会貢献支援財団表彰式 日本おもちゃ図書館財団審査委員会	帝国ホテル おもちゃ図書館財団
5日(火)	全国特別支援教育推進連盟第2回理事会	全国たばこビル
7日(木)	第49回全肢連全国大会ロケハン	神奈川県民ホール
14日(木)	はげみ編集委員会	日本肢体不自由児協会
27日(水)～31日(日)	韓国脳性麻痺福祉会代表団来日	東京・神奈川
28日(木)	全社協・第29回障連協常任協議委員会	全社協
29日(金)	内閣府・障害者政策委員会	中央合同庁舎
30日(土)～31日(日)	第49回全国大会神奈川大会	神奈川県民ホール

